



国連生物多様性の10年 記念行事

in

あいち・なごや

2011年から2020年の10年間は国連の定めた「国連生物多様性の10年」であり、昨年開催されたCOP10で採択された愛知目標の達成に貢献するため、国連全体で生物多様性の保全などに向けた取り組みを促すとしています。

このことを踏まえCOP10一周年を機に様々な催しが開催されました。

生物多様性自治体ネットワーク設立総会 10月7日



生物多様性の保全や回復を進めるには、地域に根付いた現場の活動を自ら実施し、住民や関係団体の活動を支援する地方自治体の役割は極めて重要です。

このため「生物多様性自治体ネットワーク」の設立に賛同いただいた自治体により名古屋市愛知芸術文化センターにおいて設立総会が開催されました。多くの首長、自治体の長を始め73団体85名が出席し、初代代表に愛知県知事が選任されました。

今後は情報の共有や発信などネットワークとしての活動を強化することとします。

いきもの交流フェスタ 10月8日

記念行事の一環として愛知県の主催により「いきもの交流フェスタ」が名古屋市オアシス21において開催されました。

オープニングセレモニーでは大村愛知県知事、河村名古屋市長、神田中部地方環境事務所長のあいさつの後、愛知県知事、名古屋市長によるトークショーが行われました。

また、ワークショップも色々開かれ多くの方においでいただくとともに楽しいひとときを過ごしていただくことができました。



生物多様性全国ミーティング

10月29日



生物多様性全国ミーティングは9月1日に設立された国連生物多様性の10年日本委員会に参画している様々なセクターが一同に集い、各セクターが行う生物多様性の保全と持続可能な利用のための取り組みについて意見交換するとともにセクター間での連携を深めることを目的に開催されました。

中部地方環境事務所から統括自然保護企画官がパネリストとして参加し環境省の取組について説明したパネルディスカッションでは、地球生きもの応援団のイルカさんをコメンテーターに迎え、多岐に渡る内容が討議されました。

名古屋市主催「震災と生物多様性シンポジウム」 10月30日

記念行事の一環として、名古屋市の主催により「震災と生物多様性シンポジウム」がナディアパークにおいて開催されました。

環境省 小林審議官より前日の全国ミーティング報告、東京都市大学 涌井教授による基調講演の後、名古屋市立大学 香坂准教授をコーディネーター、涌井教授をスーパーバイザーにパネルディスカッションが行われ、短い時間をフルに使い活発な討議がなされました。



これら一連のイベントを通して国連生物多様性の10年への取り組み、また、COP10愛知目標の達成に向け中部地方環境事務所も更なる活動強化を図ることといたします。



12月は 地球温暖化 防止月間です。



WARM BIZ ~一人ひとりが、やさしい冬をつくります~

チャレンジ25キャンペーン(環境省)では、2005年度から冬の地球温暖化対策の一つとして、暖房時の室温20℃設定で心地良く過ごすことのできるライフスタイル「WARM BIZ」(ウォームビズ)を推進しています。

今年度も11月1日から3月31日までをウォームビズ期間とし、東日本大震災を受けた節電の必要性はもちろんのことですが、エネルギー全般の使い方を見直し、各主体が低炭素社会の構築に向けたビジネススタイル・ライフスタイルに変革することを目指し、オフィスや家庭で出来る「WARM BIZ」の普及啓発を行います。

詳しい内容は以下のホームページをご覧ください。
<http://www.challenge25.go.jp/practice/warmbiz/warmbiz2011/index.html>

※このページに記載されているポスターやロゴマークなどの啓発ツールは、ホームページから「WARM BIZ賛同団体」へ登録いただくことにより、ご利用いただけます。

平成8年12月に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)を契機として、環境省では12月を「地球温暖化防止月間」としています。

この間、行政や事業者、各種団体において様々な取り組みが行われます。皆様の生活におきましても、どのような行動が地球温暖化防止につながるのかについて考えてみましょう。

暖房のエネルギーを抑えたり、着こなし方を変えたり、みんなで困らぬ限り、一人ひとりが、昔からの知恵と現代の工夫をとりいれて日本の冬をほかに、みんなで楽しみななら、WARM BIZ.

一人ひとりが、やさしい冬をつくります。

衣食住の、あった丸の心得!!

冬の工夫を心掛けるべし
 ● 室温20℃設定で心地よく過ごすこと
 ● 断熱性の高い服を着る
 ● 断熱性の高い靴をはく
 ● 断熱性の高い寝具を使う
 ● 断熱性の高い窓ガラスを使う
 ● 断熱性の高いドアを使う
 ● 断熱性の高い床を使う
 ● 断熱性の高い天井を使う
 ● 断熱性の高い壁を使う
 ● 断熱性の高い屋根を使う
 ● 断熱性の高い基礎を使う
 ● 断熱性の高い基礎を使う
 ● 断熱性の高い基礎を使う

<http://www.challenge25.go.jp/practice/warmbiz/warmbiz2011/>

一カルチャレンジ in ちゅうぶ

輪島市(石川県) 530運動で美しい町づくりを

輪島市では、春と秋の年2回、市内の企業・各種団体が主体となった、「輪島市美しい町づくり推進協議会」提唱の下、530(ゴミゼロ)運動を実施しております。

春と秋の各一週間を全市美化清掃週間と銘打ち、個人や団体を問わず屋内外の清掃や側溝・用水のどろあげ、ごみ拾いや雑草等の草刈りをし、清掃週間内の一日を一斉清掃奉仕日として、企業・各種団体が公共の場所などを清掃します。

昭和52年から実施してきた530運動は、本年度で35年目となり、現在約40団体・600名が取り組んでおります。

この取組を通じて、美しい町づくりを形成していくとともに、企業、各種団体、行政などが協力して、住民の皆さんに環境美化への関心を持っていただけるよう今後もより一層啓発していきます。



9月29日 秋のゴミゼロ袖ヶ浜

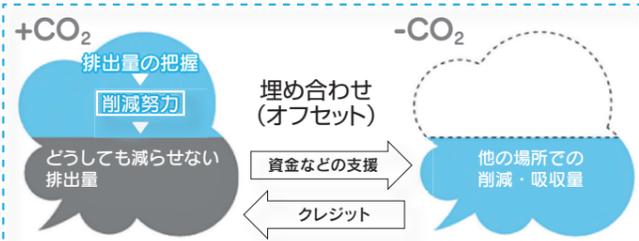


輪島市福祉環境部環境対策課
電話：0768-23-1853(いやゴミ)

中部カーボン・オフセット推進ネットワークのご案内

21世紀の企業にとっての重要課題の一つは、温室効果ガスの排出削減とエネルギーコスト削減への対応です。これ以上の温暖化・気候変動が人類社会全体へのリスクである以上対応は不可避です。温室効果ガスの排出削減はすなわちエネルギーコストの削減であり、生産コストの削減にもなります。

カーボン・オフセットとは、このような温室効果ガス排出とエネルギーコストの削減に加えて商品やサービス、企業活動そのものに確実な環境価値を付加する公的な仕組みです。カーボン・オフセットに用いられるJ-VERクレジットとは森林保全活動などを中心とする温室効果ガスの排出削減・吸収活動から生み出されるものであり、環境教育の場の提供、多様な動植物の住みかへの創出、再生可能エネルギー設備の増加といったさまざまな付加価値を地域にもたらすもので、中部(愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、長野)管内でもこのクレジットを創出する多くのプロジェクトが進んでいます。



中部カーボン・推進ネットワークは、地域社会の低炭素化を促進し、このカーボン・オフセットの仕組みを、地域の皆様により分かりやすく理解していただくことを目的として、中部地区で初めて環境省委託事業として設立されました。

カーボン・オフセットについて知見を深めたい地域の民間企業・自治体等の皆様が緩やかなネットワークを形成し、サービスとして①HPやメルマガでの最新情報の提供、②さまざまな研修機会の提供、③ヘルプデスク機能の提供を行い、カーボン・オフセットの取組みをスムーズに展開していきたいと考えています。是非、中部カーボン・オフセット推進ネットワークにご参加ください。

事務局：特定非営利活動法人ボランタリーネイバース
株式会社ウェストボックス
協力：環境省中部地方環境事務所
環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

詳しくは、<http://c-conet.org/index.html>



「めぐりふーど」

シンボルマークの使用開始

食品リサイクルの取組をより広めるためには、この取組から生まれた商品をより多くの方々に利用していただくことが必要です。このため当事務所では、この取組を皆様に身近に感じていただき、認知度やイメージの向上を図れるように、食品リサイクルの取組を表す愛称として「めぐりふーど」とそのシンボルマークを定めました。

このたび、この愛称とシンボルマークをご利用いただくために、利用の手引きを作成し使用申請の受付を開始しました。この愛称とシンボルマークの利用は、「食品リサイクルに取り組んでいる」、「協力している」など、食品リサイクルの取組に貢献している当事務所管内の事業者や団体等の方々であれば、基本的にどなたでもご使用いただけます。

詳しい申請方法やご利用の条件は、当事務所の廃棄物・リサイクル対策課にお問い合わせいただくか、当事務所のHP(http://chubu.env.go.jp/recycle/r_6.html)をご覧ください。